

今月の「クリルちゃん」

ひなまつりちゃん

雛人形は、病気や事故から守ってくれるとされています。

学びセンター通信の第13号をお届けします。  
今号も学びセンターの最新ニュースなどをお伝えします。

## 2月12日開催 第19回JEES教育セミナー

特定非営利活動法人全国初等教育研究会（JEES）と学びセンターとの共催で、図書館2階でセミナーを開催しました。当日は、会場に50名程度、オンラインでの配信では500名ほどの参加となりました。

GIGAスクール環境の整備から2年が経ち、全国各地で様々な活用の工夫がされるようになってきました。

今回のセミナーでは、若手とベテランの先生方にご登壇いただき、GIGAスクール環境での授業事例や学級経営についてお話をいただきました。

はじめに、若手の先生方から「低学年におけるGIGA端末の導入時や活用の始まりにおける実践」（静岡市立小学校）、「基礎基本定着の学習習慣とGIGA端末を活用した問題解決的な実践」（世田谷区立小学校）についてそれぞれ発表いただきました。その後、文部科学省研究開発学校としてGIGAスクール構想を先進的に取り組んでいる、愛知県春日井市の中学校のベテラン教諭から「中学校実践から見た小学校や小学校苦手教師への期待」についてお話をいただきました。「低学年から中学校までの段階で話が聞けて、どのように取り組んでいけばいいかわかった」などの感想をいただくことができました。（佐藤和紀）



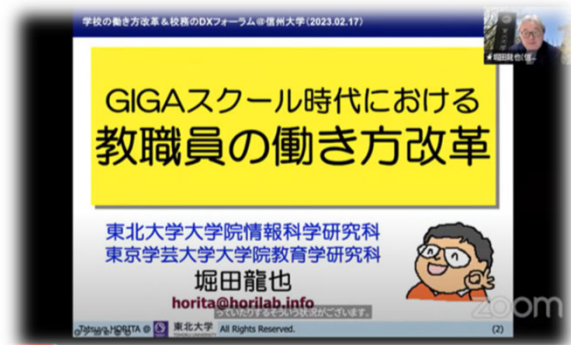
## 2月17日開催 校務の情報化フォーラム

学びセンター主催（長野県教育委員会・日本教育工学協会後援）で「学校の働き方改革＆校務のDXフォーラム」をZoom（ウェビナー）＆YouTube（ライブ配信）開催しました。

YouTubeによるライブ配信視聴を含めた参加者数は130名で、北海道から沖縄まで日本各地の多くの先生方にお集まりいただきました。校務のDX化について、堀田龍也特任教授から文部科学省の方針等大局的な視点からご講演をいただいた後、宮下昭夫校長先生、渋谷孝信副校長先生、織田裕二教諭から、それぞれ学校現場で校務の情報化にどのように取り組んでいるのか、学校管理職の立場、実際に推進役を担っている立場からパネルディスカッション形式でお話を伺いました。

参加者からは「校務DX化について具体的な取組及び目に見える成果を聞くことができた」「教育のDX化は単に仕事効率が効率化されるというのではないことが理解できた。DX化の結果、先生方に余裕が生まれ、さらに子どもとじっくり接する機会が増える。気持ちにゆとりができる。良い循環で生活が回せるということがよく理解できた」といった感想をいただきました。

本フォーラムの様子はYouTubeでオンデマンド公開されており、自由にご覧いただくことが可能です。校務の情報化がなかなか進まない自治体や学校等において、本学部の取り組みが一例として参考になるフォーラムとなりました。（森下 孟）



フォーラムの様子は  
こちら👉

## 「教員養成における新必須ICT教育科目の授業事例集」が公開

教員養成カリキュラムの新必須ICT教育科目について、信州大学教育学部で実際に行われている授業で使用するワークシートのテンプレートが公開されました。大学教育の皆さまが新科目に対応した授業を検討する一助として、ぜひご活用ください。（佐藤和紀）



アクセスは  
こちら👉



※1人1台端末を前提とした学校の環境において授業を行う教員の届け出が必要になり、2022年度から、新編課程の認定業務に「新編課程認定業務」が追加され、中学校教員養成課程及び小学校教員養成課程にも対応する必要があるとされています。

## GIGAスクール構想 書籍の発行

本学では、教育実習でICTを活用した授業が必修となっています。GIGAスクール構想が始まり、教育実習専用アカウントも配布され、学生たちは実習でICT活用授業に取り組んでいます。

本書は、附属長野小学校・長野中学校・松本小学校・松本中学校・附属特別支援学校の先生方を中心に、先生方と実習生が取り組んだICT活用授業についてご執筆いただきました。今後は教育実習の教科書として、学生たちが本書を参考に授業づくりをしていきます。

学びセンター特任教授の堀田龍也先生に監修していただきました。

### 『ICTを使いこなせる教員養成講座 1人1台端末とクラウド環境で授業できるようにするために』

信州大学教育学部附属学校園（著）

信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター（編著）

堀田龍也（監修）

株式会社さくら社、978-4908983641

（佐藤和紀）



## 次世代型学び研究開発センターを離れるにあたって 東原義訓

1995年4月1日に附属教育実践研究指導センターに助教授として赴任してから28年が経ちました。当時は、センター専任が土井進教授と二人しかいなかったため、化学を専門とする漆戸邦夫センター長のご理解を得ながら、何事にも3人の協力体制であたりました。学生が子供たちとの触れ合い活動を企画運営する信大You游サタデー、22時までのコンピュータ室の夜間開放、教職の魅力に出会い実践的指導力を向上させるための教育参加や教育実習、通信衛星によるSCS利用の大学間遠隔教育、教員採用模擬試験、科学研究費獲得のためのアドバイスなど、学部として実施したほうが望ましいと思われる新たな試みに挑戦する役割と仕組みがセンターであることを初期の段階で自覚したように思います。

着任早々、いじめ問題、不登校対策のための教育相談等にも対応できるようセンター改組の必要性を認識し、先行大学を参考に、教育実践総合センターとして専任4人体制に拡張しました。さらには長野市教育委員会と教育学部が連携して教職10年経験者研修の企画運営にもあたりました。教員免許更新講習のために、長野県教育委員会や県内の大学と連携する基礎を固め、全学の教員免許更新支援センターに引き継ぎました。

その後、教育実践総合センターは次世代型学び研究開発センターへと名称を変え、次世代に必要な学び力の育成に必要な研究開発を担う学部のまさに中心的センターとして役割を担うことになりました。

情報分野を主担当とした私にとって一番大きな課題は、全学部生の情報活用能力とICT活用指導力の向上でした。これについては、全教科等の先生方のご理解・ご協力を得ることができ、2単位の「コンピュータ利用教育」という全国にも類のない必須科目を創設することができ、今日、より発展的なカリキュラムへと進化しています。

最も困難を極めたのは、教育実習におけるICT活用の必須化でした。附属学校の情報環境を整備し、長野県教育委員会のご理解のもとに附属学校教員経験者を准教授として学部を迎えて主担当になっていただき、大学院生にはICT支援員として協力してもらい、私自身も実習生のICT支援員を担当して、なんとか軌道に乗せることができました。現在では、附属学校の先生方のご理解、ご協力のもとに、日本に誇るICTを活用した教育実習に進化しています。

それぞれの領域の専門家である各教授を核とする研究室が頑張ることは当然必要なことですが、社会の現実の問題を解決するためには、縦割りではなく、教科横断的な発想と挑戦的な取り組みが必要です。

VUCAな時代であっても、センターを核に異なる分野の先生が協働する仕組みを有する、村松浩幸学部長が舵を取られる信州大学教育学部の未来には明るいものを感じます。ご発展をお祈りいたします。

## 信州大学教育学部附属次世代型学び研究開発センター

TEL：026-238-4242 メールアドレス：crilofc@shinshu-u.ac.jp

Webサイト：<https://cril-shinshu-u.info/>

## GIGAスクール県内サポートサイト

長野県内のさまざまなGIGAスクール情報をお届けしています。

Webサイト：<https://cril-shinshu-u.info/giga/>

